

被爆 67 周年原水爆禁止世界大会・フクシマ大会・

ヒロシマ大会・ナガサキ大会

## 核社会の終焉が人類史的課題

2012年7月28日 福島県教育会館で、被爆 67 周年原水爆禁止世界大会・フクシマ大会が開かれました。



原水爆禁止世界大会が7月28日、福島市で東京電力福島第一原発事故を受けて初開催した昨年続く2回目の福島大会に、約1050人（主催者発表）が参加。「脱原発」を主要テーマに現状報告や講演が行われ「放射能被害の下で、健康や生活への不安、差別と偏見を断ち切らねばならない」とのアピールを採択後、福島市内をデモ行進した。

原水爆禁止日本国民会議（原水禁）などが主催、原発事故被害者や原爆被爆者も参加した。5歳の時に長崎で被爆した川野浩一原水禁議長は、福島原発事故念頭に「全ての核に反対してきましたが、私たちの力も努力も足りなかった。

心から申し訳なく思う」とあいさつ。「わが国でも原発事故がいつでも起こり得ることがこれで明確になった。二度とフクシマを繰り返さないため、全原発を止めるしかない」と訴えた。

会社員で福島県平和フォーラムの大内良勝事務局次長一福島市一は「素人の地元住民だけが集まっても、効果的な除染はできない。放射能は目に見えない。心配が先行して、体より精神が壊れそうだ」と現地報告した。

元原子力プラント設計技術者の後藤政志さんは、原発事故の現状と課題について講演し「地震国の日本でプラント設計はできない。多重防衛は（事故の）確率を落とすだけで、確実ではない」と指摘した。世界大会は広島、長崎の被爆両県に会場を移し、8月9日まで続きました。

## 2012年8月4～6日 被爆67周年原水爆禁止世界大会・ヒロシマ大会

被爆67周年原水爆禁止世界大会の広島大会が、8月4日から6日にかけて開かれました。原水禁の独自大会では「核と人類は共存できない」を前面に出し、「核社会」からの離脱を強く訴えました。

「連合」「原水禁」「核禁会議」三団体主催の「平和ヒロシマ大会」で、三団体共同行動の制約があるにしても、「核禁会議」が福島原発問題に一言も触れないことに、違和感を覚えました。



## 2012年8月7日 被爆67周年原水爆禁止世界大会・ナガサキ大会

2012平和ナガサキ大会（連合・原水禁国民会議・核禁会議の共催）ました。が8月7日に長崎市内で開かれました。労組など4500名が参加。「核兵器廃絶」を強く訴え、福島原発事故の一日も早い収束を求めました。原水禁の川野浩一議長は原発問題に触れて「我が国のエネルギー政策をどうするのか、議論を深めなければならない」と述べました。連合の南雲弘行事務局長は「中長期的に原子力エネルギーに対する依存度を低減し、最終的には原子力エネルギーに依存しない社会を目指していく」などの方針を示しました。

被爆者代表の中島正徳氏より被爆経験が語られ、最後に参加者は「原爆を許すまじ」を合唱し平和を誓いました。

